



「オブセルヴァトワール附近」1927年

大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室開設記念

佐伯祐三展

平成16年10月9日(土)～12月12日(日)

午前11時～午後7時(入場は午後6時30分まで)〈休館日〉毎週水曜日

※ただし10月17日(日)は臨時休館、11月3日(水・祝)は開館

主催＝大阪市教育委員会(近代美術館建設準備室)、毎日新聞社、毎日放送

後援＝財団法人大阪都市協会、財団法人大阪21世紀協会

協賛＝ 大林組  西日本  高速オフセット  大王製紙

協力＝大毎広告

観覧料＝一般500円(400円)／高校・大学生300円(200円)

()内は20名以上の団体料金

中学生以下、大阪市内在住で65歳以上の方(要証明)

および障害者手帳をお持ちの方(介護者1名も含む)は無料

〈お問い合わせ〉大阪市立近代美術館建設準備室(大阪役所内)

Tel.06-6208-9096/Fax.06-6201-5759(土・日・祝を除く)

大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室

大阪市中央区南船場3-4-26 出光ナガホリビル13階(旧出光美術館)

巴里^{パリ}の熱情

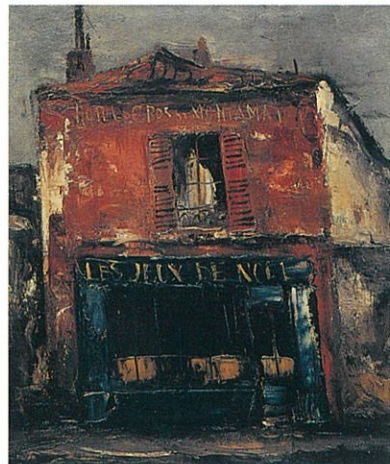
日本最大の佐伯祐三コレクションを一挙公開。



「彌智子像」1923年



「レストラン(オテル・デュ・マルシェ)」1927年



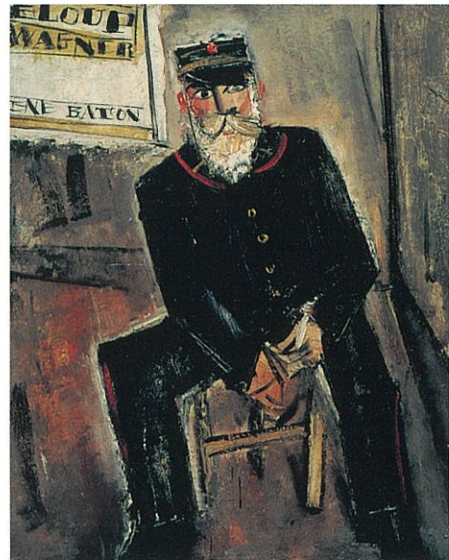
「レ・ジュ・ド・ノエル」1925年



「煉瓦焼」1928年



「モラン風景」1928年



「郵便配達夫」1928年

大阪市立近代美術館(仮称)心齋橋展示室開設記念

佐伯祐三展 熱情のバリー

パリに生きた画家、佐伯祐三

1898年に大阪(現・大阪市北区中津)に生まれた佐伯は、東京美術学校を卒業後、パリへ渡りました。そして野獣派の大家であったヴラマンクに「アカデミック!」と作品を批判されたことをきっかけに、自らの作風を模索し始めます。やがてパリの石造りの建造物と壁に描かれた広告の文字を見出し、踊るような描線の特徴とする独自の様式を確立しました。1926年に病状の悪化を心配する家族の勧めによって一時帰国を余儀なくされますが、パリへの想いを断ち切れずに再び渡仏。命を刻み付けるように次々と作品を描きつけました。そして1928年、パリ郊外の村モランへの写生旅行を行ったのち病床に伏し、8月、30歳という若さでその生涯を閉じました。

収集家山本発次郎と佐伯祐三コレクション

本展では、大阪市立近代美術館建設準備室が所蔵する佐伯祐三全作品を公開します。その多くが山本発次郎コレクションから成っています。大阪の実業家山本発次郎(1887~1951)は、独自の審美眼をもつ美術収集家として高名でしたが、佐伯の没後その作品に出会って衝撃を受け、滞仏期の作品を中心に次々と収集を行いました。コレクションの一部は戦災で焼失しましたが、40点におよぶ佐伯作品や、墨蹟・染色など500点以上の作品が1983年に大阪市に寄贈され、これを軸に近代美術館構想がスタートしました。その後の収集活動の結果、現在では所蔵する佐伯作品は50点を越え、日本最大のコレクションとなっています。本展では、ライフマスクや直筆の手紙などの貴重な資料もあわせて公開します。

観覧料＝一般500円(400円)／高校・大学生300円(200円) ()内は20名以上の団体料金
中学生以下、大阪市内在住で65歳以上の方(要証明)および障害者手帳をお持ちの方(介護者1名も含む)は無料

〈ミュージアムトーク〉

展覧会会期中の毎週土曜日の午後2時30分より、学芸員が展覧会をご案内します。

大阪市立近代美術館(仮称)心齋橋展示室を開設します。

大阪市は北区中之島4丁目近代美術館の建設計画をすすめています。日本と世界の近・現代美術の流れを概観できる常設展示を目指し、優れたコレクションの形成につとめてきました。これまでに収集した作品は3000点におよんでいます。この度、中之島の近代美術館建設を推進するとともに、より広くコレクションに親しむ機会を提供するために、心齋橋筋に近い南船場3丁目に新たに展示室を開設することとなりました。アクセスもよく、気軽にアートと出会える新しい空間です。

大阪市立近代美術館(仮称)心齋橋展示室

大阪市中央区南船場3-4-26 出光ナガホリビル13階(旧出光美術館)



地下鉄「心齋橋」駅(御堂筋線/長堀鶴見緑地線)
または「長堀橋」駅(堺筋線/長堀鶴見緑地線)下車徒歩約3分